

滋賀県産業振興ビジョンの改定状況について

1 趣旨

- (1) 本県では、産業振興のあり方を考え、その理念や施策の基本的な方向などを示した「滋賀県産業振興ビジョン」(以下「現行ビジョン」という。)を平成27年3月に策定し、本県経済の発展や雇用の維持・拡大、地域の活性化を図ってきたところ。
- (2) 現行ビジョンにおいては、滋賀の強みを活かすことのできる「水・エネルギー・環境」や「高度モノづくり」など5つのイノベーションの創出に重点的に取り組んできた。
- (3) これまでの成果や課題を踏まえつつ、本県を取り巻く経済・社会情勢の大きな変化やSociety5.0の実現に向けた国の動き等を背景に、平成30年12月に滋賀県産業振興審議会を設置し、議論や検討を行い、企業や経済団体等の意見を聴きつつ、令和2年3月の改定を目指し、作業を進めているところ。

2 これまでの経過

平成30年8月6日	厚生・産業常任委員会(滋賀県産業振興ビジョンの改定について)
12月17日	厚生・産業常任委員会(滋賀県産業振興ビジョンの改定について)
12月27日	第1回審議会(現行ビジョンの中間総括、本県産業を取り巻く経済・社会情勢の変化と課題について議論)
平成31年3月6日	厚生・産業常任委員会(第1回滋賀県産業振興審議会の開催結果および今後のスケジュールについて)
3月20日	第2回審議会(論点整理について議論)
令和元年5月27日	厚生・産業常任委員会(滋賀県産業振興ビジョンの改定について)
5月29日	第3回審議会(骨子案について議論)
6月27日	厚生・産業常任委員会(滋賀県産業振興ビジョン(改定版)の骨子について)
7月23日	厚生・産業常任委員会(滋賀県産業振興ビジョン(改定版)の素案について)
8月2日	第4回審議会(素案について議論)
9月11日	厚生・産業常任委員会(滋賀県産業振興ビジョン(改定版)の原案について)
9月12日	県民政策コメント[10月11日まで] ※ 提出された意見4名(団体)20件
10月18日	第5回審議会(ビジョン答申案について議論)
10月24日	審議会答申

3 今後の予定

令和2年2月 定例会議に議案上程

厚生・産業常任委員会資料 1 - 2
令和元年(2019年)12月16日
商工観光労働部商工政策課

滋賀県産業振興ビジョン (改定版) 案

令和元年 (2019年) 12月
滋 賀 県

滋賀県産業振興ビジョン改定の趣旨



位置づけ

本県における産業振興施策を総合的に推進するための中長期の指針となるもので本県の実情と将来予測を踏まえ、今後の産業振興の理念や施策の基本的な方向などを定めるもの。

県、企業、団体、大学をはじめとする、多様な主体の共創により取組を進めるための共通の指針となるもの。

改定の必要性

本格的な人口減少社会への移行、就業構造の変化、T P P 1 1協定の発効、国連で採択された持続可能な開発目標（S D G s）の達成やSociety5.0の実現に向けた国の動き等、本県を取り巻く経済・社会情勢が大きく変化している。

こうした変化に的確に対応し、本県が将来にわたって力強く持続的な発展を遂げていくため、新たに策定された滋賀県基本構想に基づき、改定を行うもの。

改定後の計画期間

令和2年度（2020年度）から令和12年度（2030年度）。

※現行産業振興ビジョンの計画期間は、平成27年度（2015年度）から平成36年度（2024年度）

改定のポイント



- コンセプトを明確化
～「キーメッセージ」を設定
ミッション(使命)、ビジョン(目指す姿)、バリュー(価値観)を定義
- 持続可能な社会の実現に向け、目指す姿からのバックキャストिंगの手法も加え、施策を推進
- 「人」を中心においた、本県の強みを伸ばす取組を強化
- 多様な主体の共創により、経済・社会・環境の調和のもと、ビジネスで社会的課題の解決と、持続可能な社会の構築につながる、新たなチャレンジを応援
- 施策の推進にあたっては、経済・産業の活性化状況のモニタリングに加え、OODAに見られる新たな考え方を取り込む

産業振興ビジョンのコンセプト（1）



滋賀県基本構想 “変わる滋賀 続く幸せ”

キーメッセージ

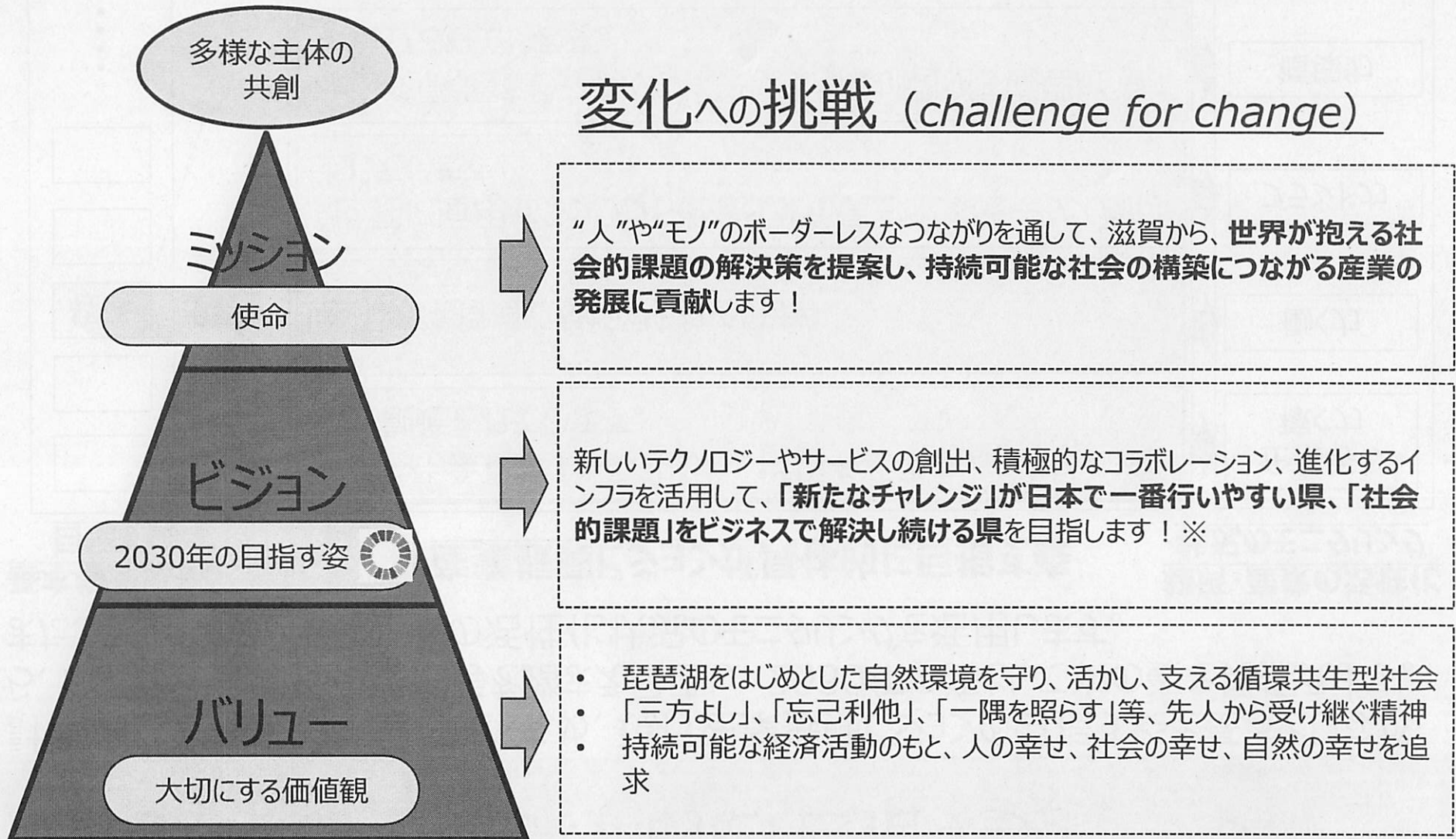
変化への挑戦 (*challenge for change*)

～受け継いだ強みを活かし、次代を見据えた新たな価値の共創～

世の中が複雑に変化し、将来を見通すことが困難を極める中、様々な可能性や選択肢がある社会で、築き上げてきたものを継承しつつ、変えるべきものは変えて、「新たな価値」を創出していく。

そのため、近江商人の「三方よし」の精神をその歴史から学び、受け継ぎ、持続可能な社会を構築するとともに、一方で、新しいテクノロジーやサービスを活用し、今まで以上のコラボレーションを実現し、失敗を重ねながらそれを糧にし、トライし続けることで、最適社会に変えていく。

産業振興ビジョンのコンセプト（2）



※SDGsのゴール 目標8「働きがいも経済成長も」や目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」も重要な要素

産業振興ビジョンが具体的に「目指す姿」

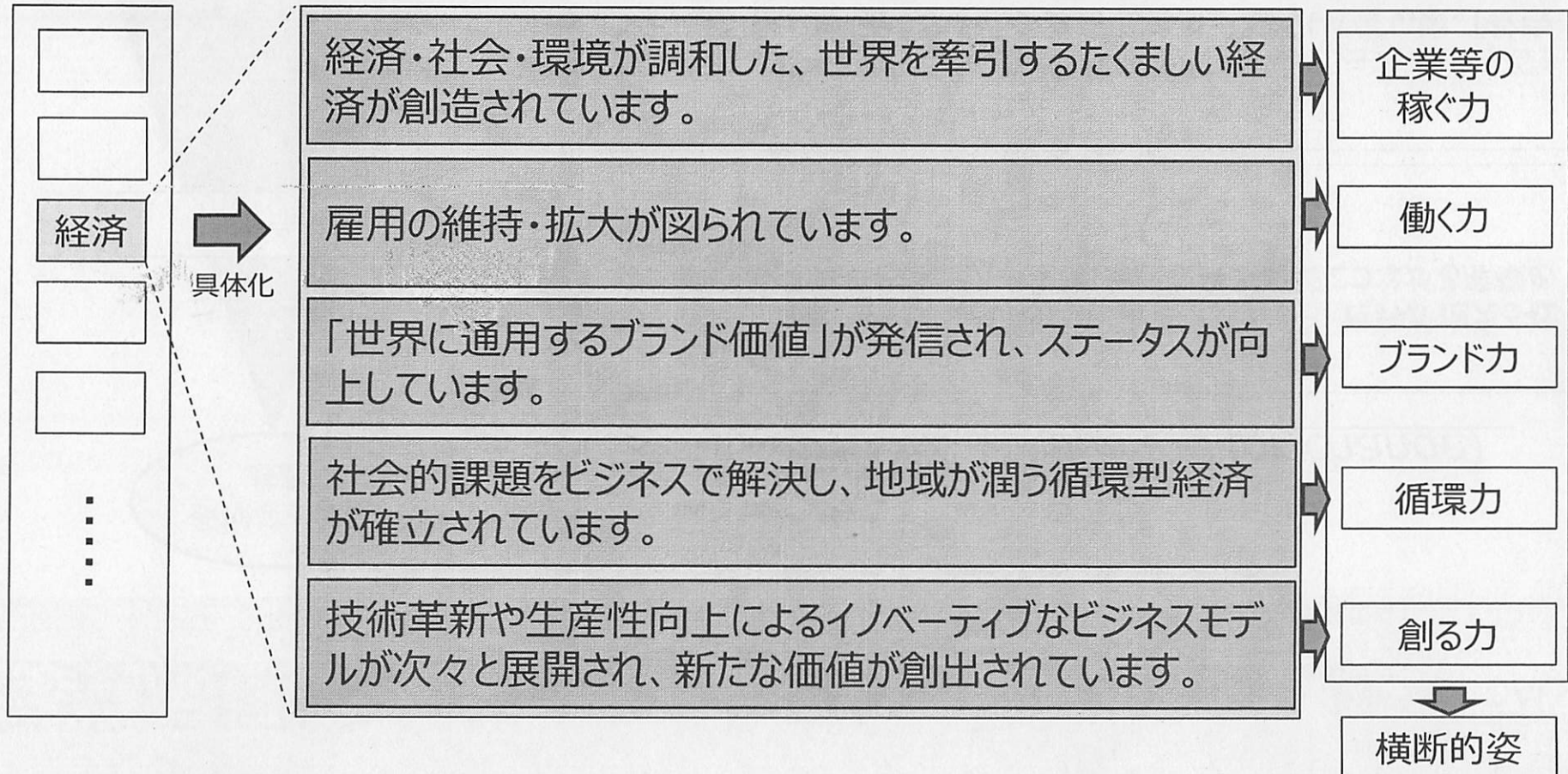


計画的に産業振興を進めていくため、現行産業振興ビジョンの目指す姿を基本としながら、経済・社会情勢の変化等を踏まえ見直し、2030年の姿として次の姿を見据えます。また、これまでの経済・産業の活性化状況のモニタリングを活用します。

基本構想にある 目指す姿

産業振興ビジョンが具体的に目指す姿

経済・産業の活性化 状況のモニタリング



滋賀県基本構想や第五次滋賀県環境総合計画等における具体的な「目指す姿」

Mother
Lake

滋賀県

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が共通した
「持続可能な開発目標」です

環境や社会への配慮、ICT、IoT、AI、ロボット技術、データ活用など第4次産業革命への対応、成長市場や成長分野を意識した産業創出・転換、事業展開等が進み、**社会的課題の解決に向けた取組**が広がるとともに、Society5.0時代における**滋賀の成長を支える多様な産業と雇用が創出**されています。

具体的な目指す姿

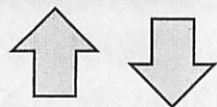
- SDGsの理念が県内企業に浸透しています。
- 高度なエネルギー利用が強みとなっています。
- 多様な人材が活躍できるダイバーシティ経営の広がりにより、強い経営が実現されています。
- 先端技術や技術革新により、生産性が向上し、新たなサービスや製品が生まれています。
- 組織を超えた交流が進み、新たなビジネス、商品・サービスが生まれ、起業なども活発になっています。
- グローバル市場への展開が進んでいます。
- 働く場としての魅力向上により、人材確保・定着が進んでいます。
- 大学等との連携により、人材育成が進んでいます。
- 円滑な事業承継が行われ、地域の活力が維持されています。
- 滋賀の風土が培ってきた技術、文化を体現する地場産業が維持、発展しています。
- 力強い農林水産業が確立し、新たな担い手の確保・育成が進んでいます。
- 環境や安全・安心などにこだわった高い付加価値を持つ農林水産物が生産されています。
- 交流人口や関係人口が増加し、その効果が様々な産業に現れています。
- 環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環が構築されています。
- 近江商人の歴史を学び、地域に対する誇りを持っています。

(参考資料) 2030年の姿 (例①)

社会的課題

・プラスチックごみや食品ロスなどの課題や、地域の抱える諸課題等をビジネスで解決する取組が生まれている。

→社会的課題をビジネスで解決するために何をすべきか。



多様な働き方や社会への関わり方

・ダブルワーク等の兼業・副業（複業）が進み、工場に勤めつつ、起業や地域の新たな担い手となっている。また、誰もが、自分の望む形で働ける多様な働き方が実現している。

→多様な働き方や社会への関わり方により、自己実現・地域貢献できる社会にするために何をすべきか。

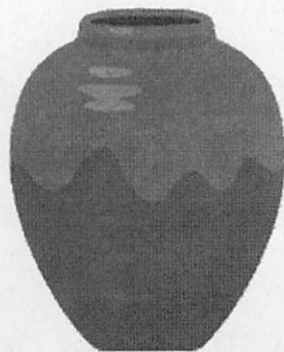
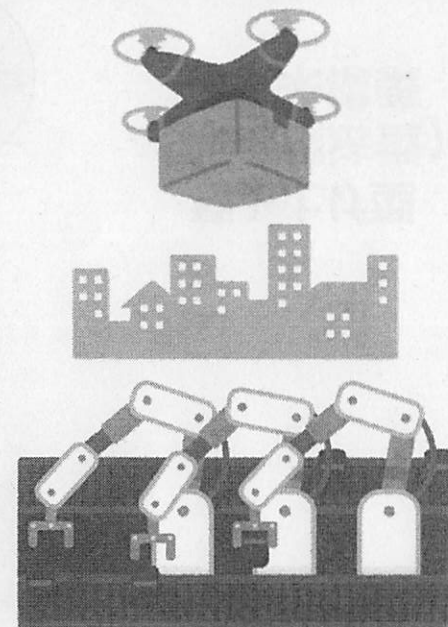
(参考資料) 2030年の姿 (例②)



実証実験

・IoT、AI、ロボット等の社会実装が進み、琵琶湖上でドローンが飛行し、買い物の利便性の向上や、工場の自動化や自動運転などが進展している。

→実証実験のフィールドとして滋賀が選ばれるために何をすべきか。



地場産業

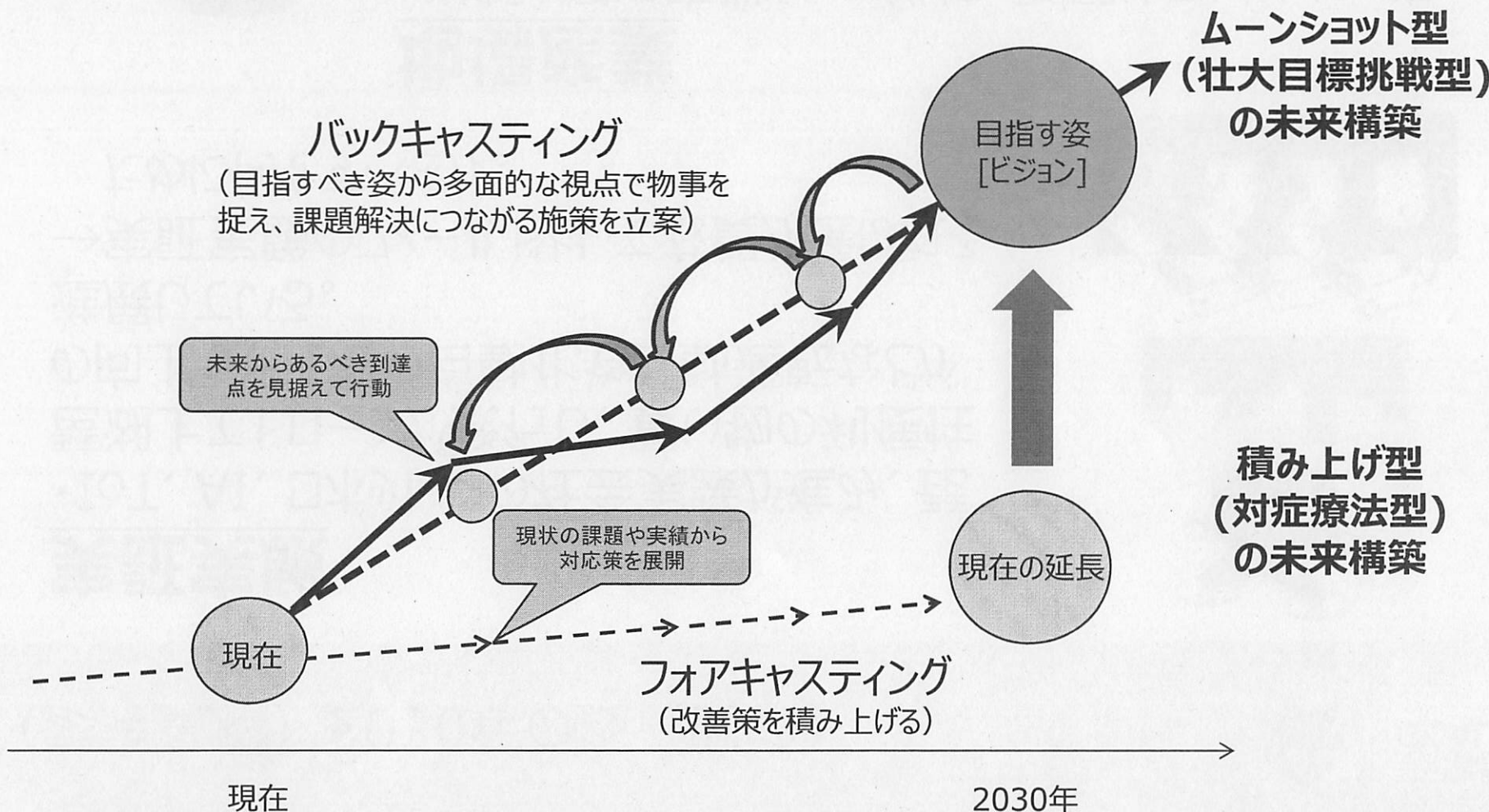
・滋賀が誇る産業として維持・発展するとともに、海外展開が進み、世界のブランドとして評価され、ネットショップやクラウドファンディングなどにより広く販売されている。

→良いモノとして世界の認知度を高め、広く使ってもらえるために何をすべきか。

2030年の目指す姿からのバックキャストिंग



滋賀県基本構想の基本理念・目指す姿の実現を図るため、従来のフォアキャストिंगの手法による施策構築に加え、2030年の目指す姿からの**バックキャストिंगの手法**により、チャレンジを促進する産業振興の基本的な考え方を定めます。



人口動態の変化、次々生まれる新しいテクノロジー、人間を取り巻くあらゆる環境変化といった**世界規模の大きな流れを的確にとらえ、変化への挑戦を促進し「新しい価値」**を生み出していく必要があります。

人

人口動態の変化と人材不足

- 世界では人口増加、国内では人口減少と高齢化の影響が顕在化
- 様々な分野の人材不足による県内産業や医療・福祉への影響

経済・社会

第4次産業革命の社会実装によるSociety5.0の実現

- 国内市場の縮小による県内産業への影響
- 事業承継が進まない場合の地域社会への影響
- 農林水産業の持続性への影響
- 第4次産業革命を通じたSociety5.0の実現による経済や社会への影響
- AI、IoT等の技術革新（デジタルトランスフォーメーション）への対応

環境

「負荷削減」だけでなく、「いかに適切に環境に関わるか」というより広い視点へ

- 気候変動による影響の顕在化と多発する大規模災害
- パリ協定の発効による世界的な脱炭素化の流れ
- 再生可能エネルギーの利用拡大、新しいエネルギー社会の実現
- 琵琶湖や流入河川の水質改善も、生態系に関する課題の顕在化
- 「守る」取組で地域資源の価値を高め、「活かす」ことでさらなる「守る」取組を推進

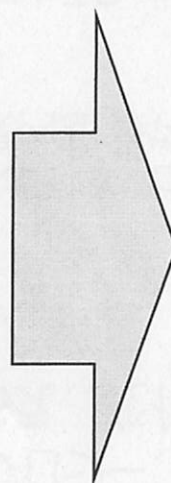
インフラの進化



多様な主体の不断の取組によりインフラの進化に寄与するとともに、産業振興に活用します。

想定されるインフラの進化

- リニア新幹線等の高速交通網
- ドローン等の航空輸送網
- EV化、自動運転
- 宇宙インフラの拡大
- グリーンインフラ
- 通信環境
- データ活用や自動化促進
- モバイル機器
- VR・AR
- キャッシュレス
- ワイヤレス電力伝送
- ロボットの社会実装
- 遠隔医療
- 水素等エネルギー活用
- 芸術、文化、スポーツ等の公共施設



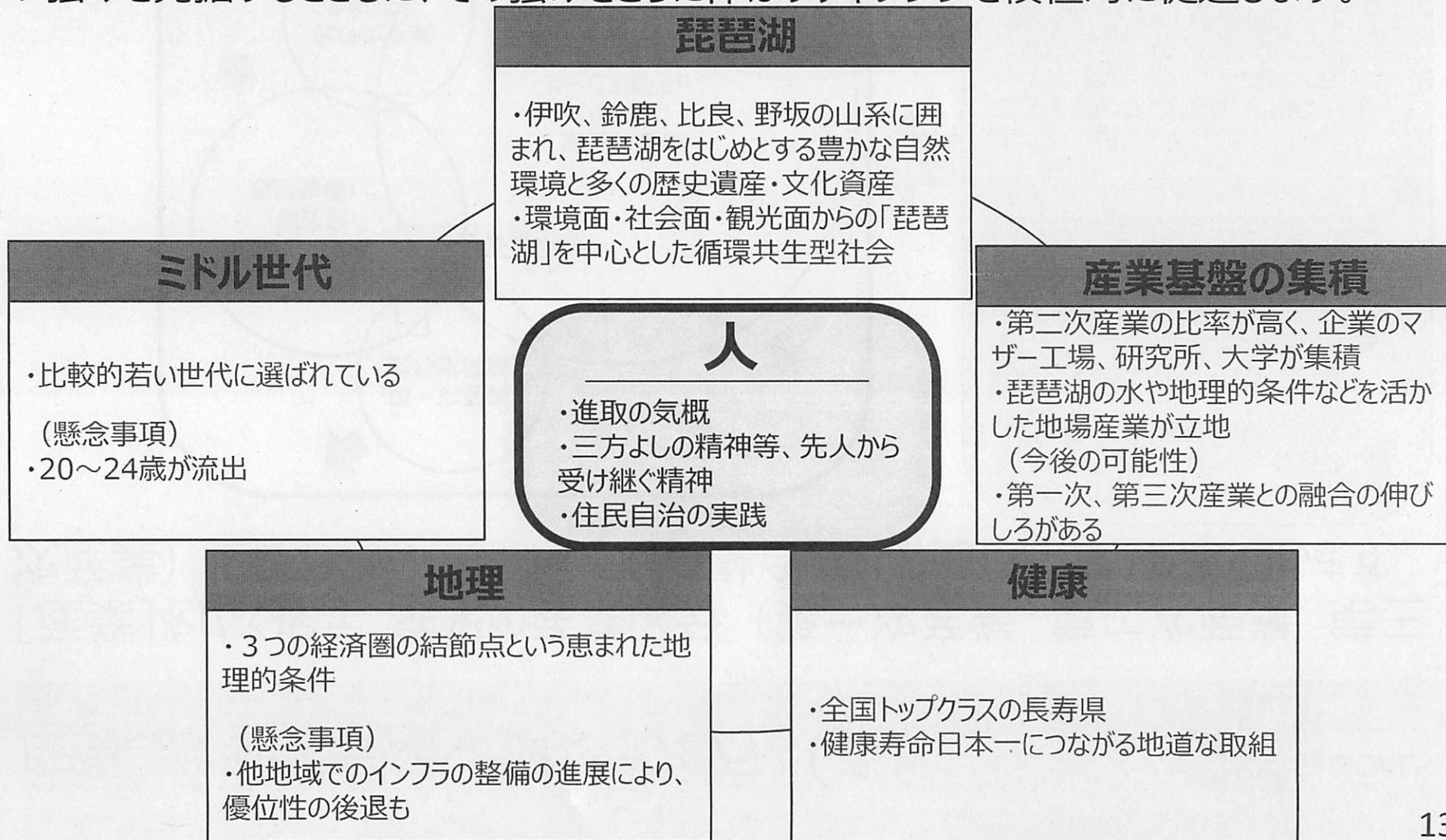
事業への取り組み方、生活のあり方が変わるだけでなく、**新しい産業**や**新たな価値**も創出されています。

- 移動の時間短縮化・多様化による施設効果
- シェアリングエコノミーの拡大（所有から共有へ）
- Z世代（1990年代後半から2000年代半ば生まれ）に代表される高い社会問題意識をもつ世代の台頭

滋賀県の持ち味

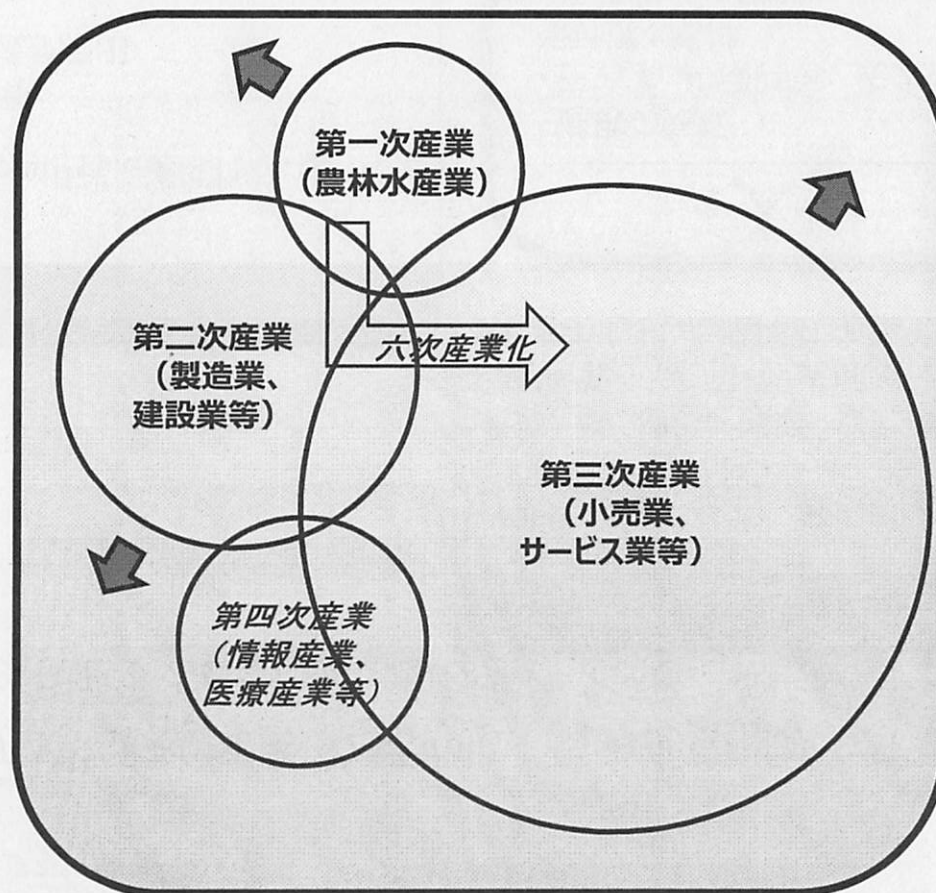


滋賀県の持ち味(特長)を活かし、弱みの克服だけでなく、気づいていない、活かしていない強みを発掘するとともに、その強みをさらに伸ばすチャレンジを積極的に促進します。



産業振興の基本的な考え方（1）

「産業」を広く捉え、従来の産業区分（第一次産業、第二次産業、第三次産業）に捉われない、「異分野の融合」や「新しい産業」を志向します。



【ポイント①】

従来の「商工業」だけではなく、行政の縦割りを超えて、「産業」を幅広く捉える。

【ポイント②】

これまでも、六次産業化や農商工連携、農福連携、建設業等の多角化などの取組があるが、観光産業の振興、事業継続やイノベーションの観点からも従来の産業分野の枠組みを超えた取組を促進する。

【ポイント③】

従来の、農業は農業者、工場はワーカーという考え方を超えて、各産業の担い手が変わってきつつある分野もある。また、非営利活動組織が役割を担うとともに、ロボットが取って代わろうとしている分野もある。

【ポイント④】

スマート農業、スマート工場、植物工場、製造業IoTなど、新しい技術の実装、データ活用等により、新たなビジネスが生まれる。

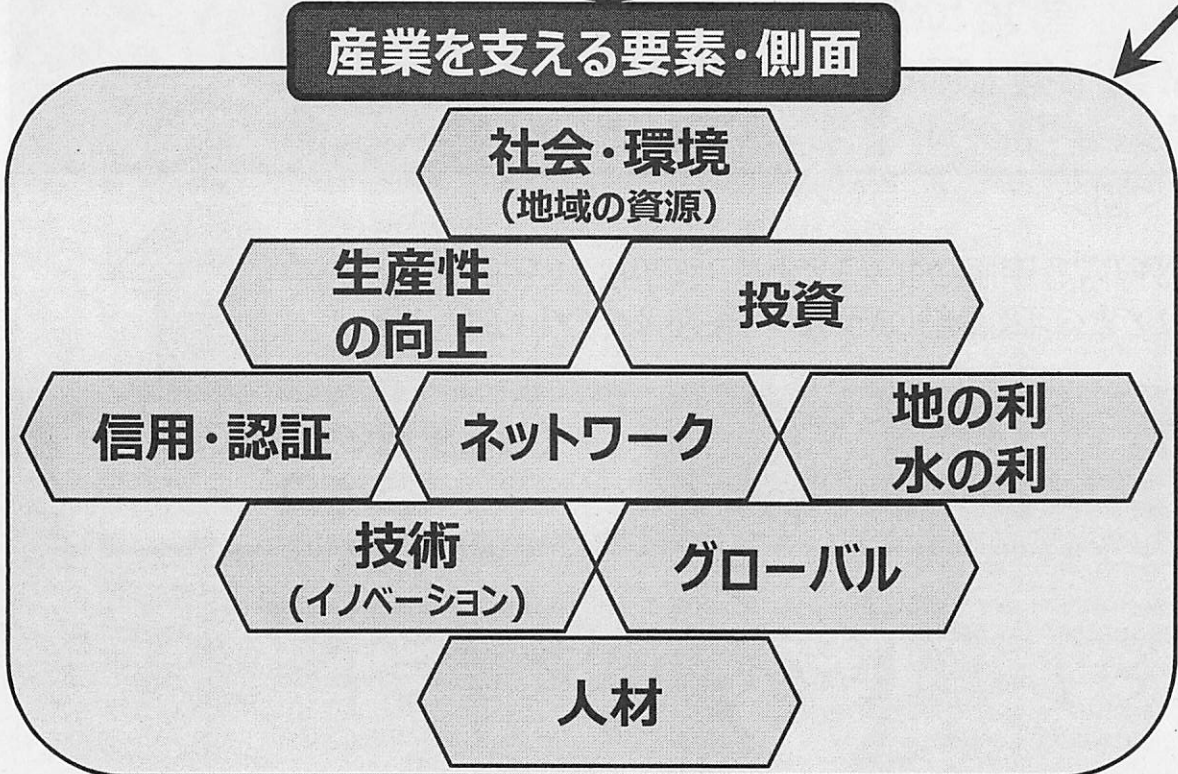
産業振興の基本的な考え方 (2)



ビジョン (2030年の目指す姿)
 「新たなチャレンジ」が日本で一番行いやすい県
 「社会的課題」をビジネスで解決し続ける県

新しいテクノロジーやサービスの創出、積極的なコラボレーション、
 進化するインフラを活用

【ポイント】
 産業を支える要素・側面から振興を図り、本県を牽引する産業を創出・支援



これまでの滋賀らしい産業の創出

例 水環境ビジネス

例 環境関連産業

例 医工連携プロジェクト

例 バイオ産業

例 ●●産業

重点的な取組(施策)

今後も滋賀らしい産業を創出

例 発酵産業

例 ■■産業

産業振興の基本的な考え方（3）



ビジョン
(2030年の目指す姿)

「新たなチャレンジ」が日本で一番行いやすい県
「社会的課題」をビジネスで解決し続ける県

新たなチャレンジを促進し、社会的課題をビジネスで解決するためには、新技術を実用化することにとどまらず、新たなビジネスモデルの創出などが必要であり、次の4つの視点を重視します。

<例>

**①チャレンジする人・
企業が集まる滋賀**

- ・ 高校生・大学生からの起業家教育の推進
- ・ 革新者の創造や近江商人等先人の教えの継承
- ・ 滋賀の魅力を高め、発信

**②実証実験のフィールド
滋賀**

- ・ 大学・市町・企業等多様な主体による新しいテクノロジー等を活用し、課題解決に向けた実証実験の場の提供
- ・ 特区制度等に見られる規制緩和の取組の推進

**③ビジネスで実践
する「健康しが」**

- ・ 誰もが取り残されることなく、人・社会・自然の健康をビジネスの観点から推進
- ・ 循環型経済（サーキュラーエコノミー）の取組の推進

**④世界から選ばれ
る滋賀**

- ・ 世界で稼ぐ力の向上
- ・ 滋賀の企業が持つ技術・サービスを世界に拡大
- ・ 人や投資を世界から滋賀に誘引

産業振興の基本的な考え方（４）



前頁の視点に沿って、多様な主体の共創のもと、ビジネスを通じて社会的課題の解決につながる、新たな9つのチャレンジを応援します。

--- 変化への挑戦 (challenge for change) ---

チャレンジ①：
挑戦する人の育成・確保・
応援

チャレンジ②：
挑戦する人たちや組織との
ネットワーク形成を支援

チャレンジ③：
挑戦して活動する機会・場
の創出

チャレンジ④：
地域の資源を活かしつつ、地域
の課題に向き合う取組を支援

チャレンジ⑤：
世界に向けてはばたく活動を
支援

チャレンジ⑥：
産業分野の融合を支援

チャレンジ⑦：
多様な人を呼び込む、関わるし
かけづくり

チャレンジ⑧：
未来を切り拓く情報や技術、
サービスの集積

チャレンジ⑨：
時代を変えていく新たな投
資を呼び込む



中小企業の経営基盤の強化への取組

新しいテクノロジー・サービス、インフラ、ネットワーク

産業分野、業種、規模の大中小を問わない地元事業者、地域に貢献する企業

目指す姿（ビジョン）の実現に向けた施策の 基本的方向（1）



目指す姿（ビジョン）（「新たなチャレンジ」が日本で一番行いやすい県、「社会的課題」をビジネスで解決し続ける県）の実現に向け、従来のフォアキャストिंगの手法による施策構築に加え、バックキャストिंगの手法により、4つの視点と9つのチャレンジを掛け合わせ、滋賀県の持ち味を活かした施策を推進します。

4つの視点



9つのチャレンジ

施策を推進

視点	番号	施策
①チャレンジする人・企業が集まる滋賀	1	滋賀に住む人の「ライフスタイル」を発信し、滋賀の職住モデルをリデザイン（reDesign）！
	2	滋賀の地域や世界の社会的課題を解決する起業家・イノベーターを育成・確保！
	3	開かれた起業家ネットワークを構築！
	4	事業の継続や新たな事業展開等、挑戦する企業等を応援！
	5	これからの滋賀の産業を担う人材の育成（一貫したキャリア教育・高等専門人材の育成等）の推進！

目指す姿（ビジョン）の実現に向けた施策の 基本的方向（2）



視点	番号	施策
①チャレンジする人・企業が集まる滋賀	6	AI・データサイエンス等、最先端テクノロジーを活用できる人材を育成・確保！
	7	課題や情報、思いを共有でき、共に挑戦していくプラットフォームを構築！
	8	異分野・異業種等、組織を超えた多様な主体による交流・連携を促進！
	9	滋賀の産業基盤の集積や人を活かしたオープンイノベーションを促進！
	10	2025大阪・関西万博を活かしたビジネスの創出！
	11	若者・女性・障害者・高齢者・外国人など多様な人材の確保・定着！
	12	企業や働く人が魅力を感じる環境の創出！
	13	多様な働き方・社会への関わり方の推進！
	14	企業の再投資や新規立地につながる事業用地確保等への迅速な対応！
	15	製造現場をはじめとするデジタル化を推進！
	16	生産性の向上や高付加価値化等による力強い農林水産業の確立！
	17	「森・川・里・湖」の多面的価値を未来へ引き継ぐ地域づくり！
18	クラウドファンディング等、チャレンジする人・企業を応援する仕組みづくりと活用！	

目指す姿（ビジョン）の実現に向けた施策の 基本的方向（3）



視点	番号	施策
②実証 実験の フィールド 滋賀	19	新たなアイデアを社会実装に向けて試行する万博の「未来社会の実験場」の一翼を！
	20	滋賀の資源を活かした実証・実験、研究・マーケティング、モニタリング等の場を創出！
	21	企業や大学等のモデル的な取組や提案を受け入れ、地域との連携を促進！
	22	新たなビジネスモデルの構築に障壁となる規制の緩和や制度の改善！
	23	デジタルデータを活用できるプラットフォームを産学官金で構築！
	24	地域を支える新たな交通の仕組みづくり！
③ビジネ スで実 践する 「健康し が」	25	発酵産業等、「健康しが」推進に向けた事業化を促進！
	26	「健康」をテーマに、産業分野を超える新たなプロジェクトの検討！
	27	地域資源の活用を通じた循環型経済（サーキュラーエコノミー）と共生の取組を推進！
	28	医療・介護・福祉の課題を産業・技術の力で解決！
	29	人の健康に留まらず、自然の健康、社会の健康に向けたビジネスモデルづくり！
	30	スポーツの力を活かしたビジネスの推進！
	31	生活や産業を支える社会インフラの整備、維持管理の担い手確保！

目指す姿（ビジョン）の実現に向けた施策の基本的方向（4）



視点	番号	施策
④世界から選ばれる滋賀	32	水環境ビジネスをはじめ、世界の課題解決に貢献する海外展開を促進！
	33	滋賀のいいものを、ブランド力を高めた商品化により海外へ販路開拓！
	34	交流人口と観光消費の拡大に向けた取組！
	35	インバウンド促進のため、キャッシュレスなど受入環境を整備！
	36	国際感覚を養った人材の養成と確保、外国人材の受入と多文化共生の推進！
	37	海外からの投資（ESG投資、設備投資を含む）の促進！

1 各主体の役割

産業振興ビジョンが目指す姿を実現していくため、以下に掲げる多様な主体が、それぞれの役割を果たしつつ、共創して取組を推進していくことが必要。

県、企業、経済団体・中小企業支援機関等、大学等教育・研究機関、金融機関、非営利組織、県民等。

2 市町・国・近隣府県等との連携

市町・国・近隣府県等との効果的、効率的な連携の推進。

3 推進体制

産業振興ビジョンが目指す姿の実現に向け、最新かつ的確な情報をタイムリーに得る仕組みや県の組織等、必要な推進体制の検討。

4 経済・産業の活性化状況のモニタリング

産業振興ビジョンが目指す姿の実現に向け、本県の経済・産業の動向について、量的（客観的、経済・雇用の主な統計指標）および質的（主観的、アンケート調査・企業訪問）の両面からモニタリングを行い、その状況の把握・分析を実施。

具体的な施策の構築や検証等に活用。

5 政策の推進

目指す姿（ビジョン）の実現に向けた産業振興の展開（2）

Mother Lake

滋賀県

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

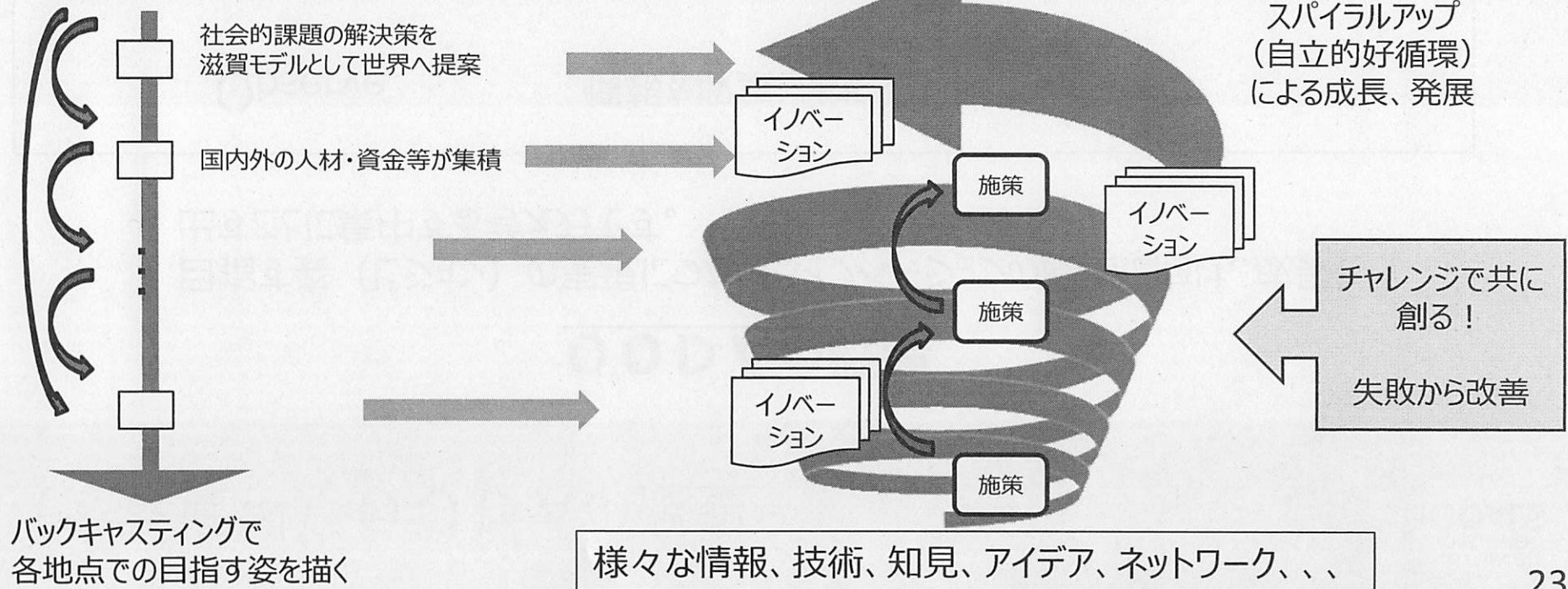
2030年に向けて
世界の共通した
「持続可能な開発目標」です

社会的課題を解決していくには、刻々と変わる状況に柔軟に対応し、試行錯誤を繰り返すことが重要です。そのため、産業振興ビジョンでは当初の計画や数値目標の達成に力点が置かれる「PDCA」の考え方のみならず、「経済・産業の活性化状況のモニタリング」に加え、目指す姿（ビジョン）の実現につながるイノベーションの創出に向け、成果を出すことに集中する「OODA」（ウーダ）に見られる考え方を取り入れ、チャレンジを繰り返しながら施策を展開し、新たな価値を創出する産業振興の展開が図れないか検討します。

目指す姿（ビジョン）

「新たなチャレンジ」が日本で一番行いやすい県
「社会的課題」をビジネスで解決し続ける県

“「新たな価値」を生み出しながら、 目指す社会の実現”



OODAの概要

目指す姿（ビジョン）の実現につながるイノベーションの創出に向け、成果を出すことに集中する考え方です。

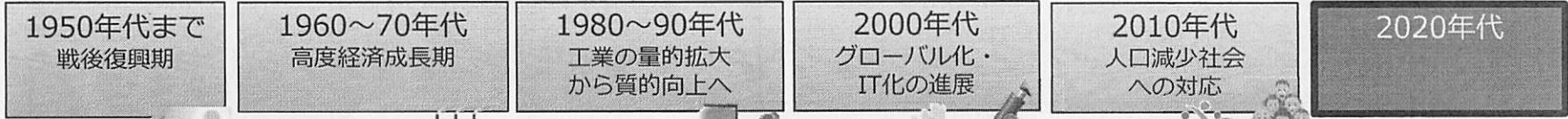
Observe	情報を収集します
Orient	仮説を構築します
Decide	数ある選択肢から実行する施策を決定します
Act	施策を実行します

チャレンジを繰り返しながら施策を展開し、経済・社会情勢の変化に機動的に対応します。

(参考資料) 戦後における本県の経済・産業の変遷



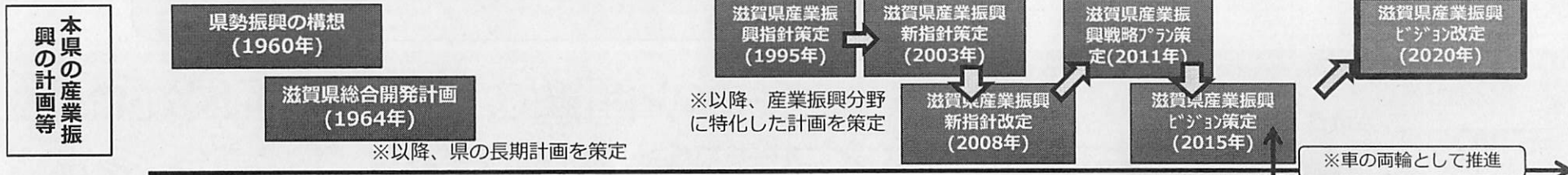
2030年に向けて
世界の共通した
「持続可能な開発目標」です



本県経済・産業の変遷

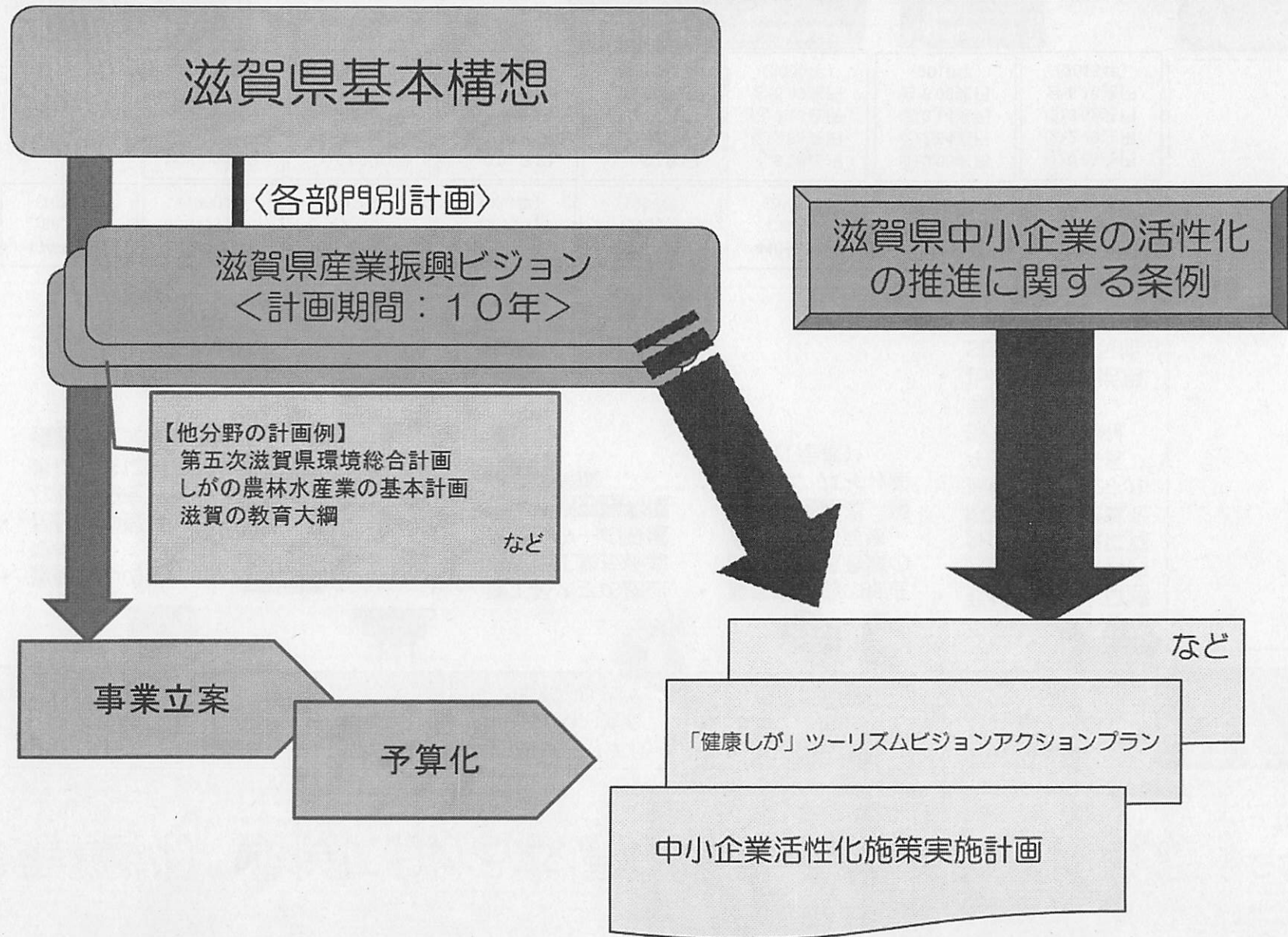
- 1950年代まで 戦後復興期**
 - 農業中心の産業構造
 - 琵琶湖の豊富な水資源を背景に、主に**繊維産業**が発展
- 1960～70年代 高度経済成長期**
 - 工業団地**の造成による工場誘致
 - 電気・機械などの**大企業**の工場の立地
 - 大企業のサプライチェーンを支える**中小企業**が多数生まれるなど、**加工組立型産業**が集積
- 1980～90年代 工業の量的拡大から質的向上へ**
 - 理工系大学の誘致、滋賀県工業技術総合センターの設置による**研究開発型企業**の育成
- 2000年代 グローバル化・IT化の進展**
 - 産学官連携**の推進、**高付加価値産業**の育成（環境産業、健康福祉産業、観光産業、バイオ産業、IT産業）
- 2010年代 人口減少社会への対応**
 - 我が国は「**人口減少社会**」へ。**国内外の課題解決に貢献する成長産業**を振興（水・エネルギー・環境、医療・健康・福祉等）
 - IoT、AI等の活用、SDGs（持続可能な開発目標）の国連での採択

人口の推移	179千世帯 86万人 (1950年)	183千世帯 84万人 (1960年)	215千世帯 89万人 (1970年)	295千世帯 108万人 (1980年)	352千世帯 122万人 (1990年)	440千世帯 134万人 (2000年)	518千世帯 141万人 (2010年)	538千世帯 141万人 (2015年)
県内総生産(名目)の推移		①:0.02兆円 ②:0.05兆円 ③:0.06兆円 合:0.13兆円 (1960年)	①:0.05兆円 ②:0.31兆円 ③:0.26兆円 合:0.60兆円 (1970年)	①:0.08兆円 ②:1.23兆円 ③:2.10兆円 合:2.26兆円 (1980年)	①:0.07兆円 ②:2.92兆円 ③:2.11兆円 合:5.00兆円 (1990年)	①:0.06兆円 ②:2.88兆円 ③:3.18兆円 合:5.99兆円 (2000年)	①:0.03兆円 ②:2.84兆円 ③:3.14兆円 合:6.03兆円 (2010年)	①:0.03兆円 ②:2.79兆円 ③:3.32兆円 合:6.16兆円 (2015年)



※①は第一次産業（農林水産業）、②は第二次産業（製造業、建設業、鉱業）、③は第三次産業（卸売・小売業、宿泊・飲食サービス、金融・保険業等）を指す。また、県内総生産（合計）は、①～③は四捨五入し、総資本形成に係る消費税等を含むため、合計額は一致しない。

(参考資料) 滋賀県産業振興ビジョンの位置づけと具体的な施策や事業の展開イメージ



(参考資料) 滋賀県産業振興ビジョン(現行)と滋賀県中小企業の活性化の推進に関する条例との関係



経済・産業面からのアプローチ

滋賀県産業振興ビジョン

ビジョン策定の趣旨

本県産業の現状と課題

産業振興の基本的な考え方
(基本理念、目指す姿、視点)

産業振興の基本的方向
(今後の本県経済を牽引する産業、施策の基本)

ビジョンの推進
(各主体の役割、市町や国等との連携、モニタリング)

具体的施策や事業

中小企業活性化施策実施計画
(毎年作成、予算反映)

○産業振興ビジョンは、経済・産業のあり方の面から、どういった産業分野をどのように振興するかの方針となるものを定め、中長期的な視点で、本県産業の目指す姿、基本的方向などを明らかにするもの

○本県産業のプレーヤー(担い手)である中小企業の観点から、その活性化を目指す滋賀県中小企業の活性化の推進に関する条例とあいまって、本県経済の発展を目指すもの

○具体的な施策や事業は、従前どおり中小企業活性化施策実施計画を毎年度策定する(ビジョンでは改めて記載しない)

施策の基本

自らの成長を目指す取組

経営基盤の強化

産業分野に応じた活性化

理念／役割

条例

産業の担い手
(プレーヤー)
面からの
アプローチ

滋賀県産業振興ビジョン(改定版)原案に対して提出された意見・情報 とそれらに対する滋賀県の考え方について

1 県民政策コメントの実施結果について

令和元年(2019年)9月12日(木)から10月11日(金)までの間、滋賀県民政策コメント制度に関する要綱に基づき、「滋賀県産業振興ビジョン(改定版)原案」についての意見・情報の募集を行った結果、4名(団体)の方から、20件の意見・情報が寄せられました。

これらの意見・情報について、内容ごとに整理し、それらに対する考え方を以下に示します。

なお、取りまとめにあたり、提出された意見・情報の一部は、その趣旨を損なわない範囲で内容を要約したものとなっています。

2 提出された意見・情報の内訳

項 目	件 数
第1 はじめに ~滋賀県産業振興ビジョン改定の趣旨~	2件
第2 産業振興ビジョンのコンセプト	3件
第3 2030年の目指す姿からのバックキャスト	5件
第4 産業振興の基本的な考え方	2件
第5 ビジョンの推進	5件
(その他)	3件
合 計	20件

3 滋賀県産業振興ビジョン（改定版）原案に対して提出された意見・情報とそれらに対する滋賀県の考え方

※パワーポイントは「PP」、改定状況報告書は「報」と表記しています。

番号	頁	行または項目	意見・情報の概要	意見・情報に対する考え方
第1 はじめに ～滋賀県産業振興ビジョン改定の趣旨～				
1	PP 7	滋賀県基本構想や第五次滋賀県環境総合計画等における具体的な「目指す姿」	「近江商人の歴史を学び、地域に対し誇りを持ちます」を具体的な目指す姿に追加（近江商人、三方よしが所々にちりばめられているが具体策がない。）	御指摘を踏まえ、次のとおり修正いたします。 （報6ページも同様に修正します。） <修正後> 近江商人の歴史を学び、地域に対する誇りを持っています。
2	報 2	14行	「進取の精神」とありますが、「進取の気性」「三方よしの精神」といった使い方が一般的だと思います。報8ページの表現と整合させる意味でも「進取の気性」とされてはいかがでしょうか。	御指摘を踏まえ、滋賀県産業振興審議会での議論を経て、次のとおり修正します。 （報8ページおよびPPスライド13も同様に修正します。） <修正前> 進取の精神 <修正後> 進取の気概
第2 産業振興ビジョンのコンセプト				
3	報 4	31行	「三方よし」の精神を受け継ぎを、「三方よし」の精神をその歴史から学び、精神を受け継ぎに変更。	御指摘を踏まえ、次のとおり修正します。 （PPスライド4も同様に修正します。） <修正前> 「三方よし」の精神を受け継ぎ、 <修正後> 「三方よし」の精神をその歴史から学び、受け継ぎ、
4	報 5		「3 産業振興ビジョンが具体的に「目指す姿」にある2030年の姿は、バックキャストの根拠になるものであり、報5ページで掲げている「具体的な「目指す姿」と一体で、より具体的に描写すべきものと考えます。（その意味で報5ページは「参考」ととどまるものではないと考えます。）	報5ページに（参考）滋賀県基本構想における経済の面等からの具体的な「目指す姿」を記載しており、そうした「目指す姿」を踏まえ、報5ページに産業振興ビジョンでは、現行の産業振興ビジョンの目指す姿を基本としながら「目指す姿」を見直して記載しています。 また、御指摘を踏まえ、次のとおり修正します。 （PPスライド7のタイトルも同様に修正します。） <修正前> （参考）滋賀県基本構想における経済の面等からの具体的な「目指す姿」 滋賀県基本構想における経済の面からの「目指す姿」、第五次滋賀県環境総合計画等を踏まえ、産業振興ビジョンでは、次のとおりとしています。 <修正後> 4 滋賀県基本構想や第五次滋賀県環境総合計画等における具体的な「目指す姿」 滋賀県基本構想や第五次滋賀県環境総合計画等における具体的な「目指す姿」は、次のとおりです。

番号	頁	行または項目	意見・情報の概要	意見・情報に対する考え方
5	報6	26行	近江商人の歴史を学び、地域に対する誇りを持ちます、を追加。	御指摘を踏まえ、次のとおり修正します。 (PPスライド7も同様に修正します。) <修正後> 近江商人の歴史を学び、地域に対する誇りを持っています。
第3 2030年の目指す姿からのバックキャストニング				
6	報6		目指す姿を踏まえ、バックキャストニングの中で産業振興のための大きな目標を設定できるとよいと考えます。	報5ページにビジョン（2030年の目指す姿）として大きな姿を位置づけているため、目指す姿は原案のとおりとします。 また、個々の施策の推進においては、それぞれ目標を描きながら取り組んでまいります。
7	報8	26行	(修正) 「・9つの地場産業が立地」→「・琵琶湖の水や地理的条件を活かした地場産業が立地」 ※「9」という数が持ち味や強みではないと考えます。	御指摘を踏まえ、次のとおり修正します。 (PPスライド13も同様に修正します。) <修正前> 9つの地場産業が立地 <修正後> 琵琶湖の水や地理的条件などを活かした地場産業が立地
8	報9	17行～23行	ポイント③とポイント④は、いずれも農業を最初に記述しており、農業にウエイトを置きすぎている印象があります。	今回の産業振興ビジョンの改定では、「産業」を広く捉え、従来の産業区分（第一次産業、第二次産業、第三次産業）に捉われない、「異分野の融合」や「新しい産業」を志向することとしており、従来の「商工業」だけではなく、行政の縦割りを超えて、「産業」を幅広く捉えることとしています。 そのため、第一次産業である農業についても、より丁寧に記載をしているものです。
9	報9	18行	「担い手が変わってきている分野もあります。」の意味がよくわからないので、説明を加えた方がよいと考えます。	御指摘を踏まえ、次のとおり修正します。 (PPスライド14も同様に修正します。) <修正前> 担い手が変わってきてつつある分野もあります。 <修正後> 各産業の担い手が変わってきてつつある分野もあります。
10	報9	22行	(修正) 「製造業IoTなど、」の次に「滋賀の強みであるものづくり技術を活かし、」を追記。 ※「ものづくり技術」が本県産業の強みであることをビジョンのどこかで明記いただきたいと考えます。	御指摘を踏まえ、次のとおり修正します。 <修正前> 報9ページ33行目 新たな技術開発の推進 <修正後> 滋賀の強みであるものづくり技術等を活かした新たな技術開発の推進

番号	頁	行または項目	意見・情報の概要	意見・情報に対する考え方
第4 産業振興の基本的な考え方				
11	PP 16	産業振興の基本的な考え方 (3)	①チャレンジする・・・に、近江商人の歴史教育を追加。 (小中高の教育を推進。近江商人のブランド化が必要。あえてく世界から選ばれる滋賀>にも、近江商人のブランド化を追加すればどうか。OODAのObserveはまさに近江商人の教育)	PP4ページ(キーメッセージ)、PP5ページ(バリュー)およびPP13ページ(滋賀県の持ち味)において、近江商人の三方よしの精神について説明をしておりますが、御指摘を踏まえ、次のとおり修正します。 (報11ページも同様に修正します。)
12	PP 18	目指す姿(ビジョン)の実現に向けた施策の基本的方向 (1)	①チャレンジする・・・に、近江商人の歴史教育を追加。 (小中高の教育を推進。近江商人のブランド化が必要。あえてく世界から選ばれる滋賀>にも、近江商人のブランド化を追加すればどうか。OODAのObserveはまさに近江商人の教育)	<修正前> ・革新者の創造 <修正後> ・革新者の創造や近江商人等先人の教えの継承
第5 ビジョンの推進				
13	報 16	31行	「キャッシュレス」はインバウンドだけでなく、もっと大きな観点から取り組む課題であると考えます。	御意見のとおり、キャッシュレスは幅広く活用されていますが、ここではインバウンド促進のための施策の例示として記載していることから、原案のとおりとします。
14	報 17	10行	(追記) ・新しい東北部工業技術センターを、企業に寄り添うパートナーシップ型センターとして整備します。	県の役割として、「ソフトおよびハードの両面からの環境づくりを進めます」とし、その中に御意見の内容も含んでいることから、原案のとおりとします。
15	報 17	19行	専門的な支援に、情報提供を追加。	御指摘を踏まえ、次のとおり修正します。
16	報 17	19行	(修正) ・企業等に対して専門的な支援を行います。 → 企業等に対して専門的な支援を行うとともに支援機関相互の連携を一層強化します。	<修正前> ・ノウハウやネットワークを活かし、企業等に対して専門的な支援を行います。 ・企業等と多様な主体、地域を結び付けます。
17	報 17	21行	地域経済の活性化の為、企業と行政間の調整を行います、に変更。	<修正後> ・ノウハウやネットワークを活かし、企業等に対してニーズに応じた支援等専門的な支援を行うとともに、支援機関相互の連携を一層強化します。 ・地域経済の活性化のため、企業等と多様な主体、地域を結び付けます。

番号	頁	行または項目	意見・情報の概要	意見・情報に対する考え方
(その他)				
18	全体		人材の育成において、近江商人の歴史を勉強することを追加すればどうか。	今後、近江商人の三方よしの精神を踏まえ、ビジョンそのものを推進していきたいと考えていることから、原案のとおりとします。
19	全体		<p>滋賀県の基本構想の下に各部門別計画が策定されていることがPPの26ページに示されていますが、それらの他の分野の計画内容との整合性はとれているのでしょうか。14ページにあるように「産業」を広く捉え、「異分野の融合」や「新しい産業」を志向するというのであれば各部門別計画にもその方針が記載される必要性があると思われます。他の部門別計画が今後改定される場合には、商工観光労働部からはその点を明確に助言されることを期待します。</p> <p>それと関連しますが、現在、総合企画部で次期総合戦略の議論が行われています。その骨子案の中に産業振興に関する記述もありますが、国の基本目標を意識し、「次代に向かう産業の活性化と多様で魅力ある働く場の創出」という文言が基本政策の一つとして掲げられています。また、同骨子案中、次期計画において重視するポイントとして「Society5.0を見据えた産業の振興」という項目があり、その説明として「情報通信をはじめとした新技術と人々の生活とが調和する社会を支える産業の振興」とあります。本来であれば、こうした基本政策や重要ポイントには、産業振興ビジョン（改定版）のキーコンセプトや基本的な考え方である「異分野の融合」や「新しい産業」を志向するなどのビジョン（改定版）の重要ポイントが文言として反映されているほうが県の考え方がより明確に伝わるのではないのでしょうか。</p> <p>今回のビジョン改定において、「産業を幅広く捉える」とする以上は、商工観光労働部におかれては他の部門別計画等との整合性や相乗効果を十分意識した横断的な取り組みを計画づくりを含め積極的に行っていただきたいと思います。</p>	<p>産業振興ビジョンの改定においては、滋賀県基本構想を踏まえて改定作業を行い、整合性を図りながら進めてきております。</p> <p>今後、各部門別計画が策定される場合においても、本産業振興ビジョンと整合性を図りながら、各部門別計画の策定等に反映していただくことを予定しており、適切に助言してまいりたいと考えています。</p> <p>また、次期総合戦略とも、整合性を図りながら作成を進めてまいります。</p>
20	全体		人口減少を背景に経済成長が鈍化する中、県としては規制緩和を推進し、国内外のベンチャー企業や研究開発型企業を惹きつける必要があるように思います。これまでの政策にとらわれず、新しいフロンティアの開拓に尽力されることを期待します。	<p>産業振興ビジョンの改定においては、4つの視点のうち、特区制度等に見られる規制緩和の取組の推進を例として、「実証実験のフィールド滋賀」を進めていくこととしております。</p> <p>いただいた御意見を踏まえ、今後「実証実験のフィールド滋賀」の推進を進めてまいります。</p>